



大田区議会は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

おおた区議会だより

Ota City Assembly News

No.265

令和7年
1月26日



<https://www.city.ota.tokyo.jp/gikai/>

特集 30年前にタイムスリップ!



大田市場内を走るターレット
(大田区シティブロモーションサイト「ユニークおおた」から転載)

主な内容

- 代表質問 2～5
- 一般質問 6～10
- 議決結果 11
- 請願・陳情の審査結果 12
- **特集 30年前にタイムスリップ!** 14～15

今号の表紙

荏原市場蒲田分場(昭和43年)

荏原市場蒲田分場は、現在の大田区産業プラザP i Oの場所にありました。

その後、荏原市場はほかの市場とともに統合され、現在の大田市場(大田区東海三丁目)が開設されました。

おおた区議会だよりは、幅広い世代の方に議会活動を分かりやすくお伝えできるよう、用語解説を掲載したり、図や写真などを活用したりしています。
また、ユニバーサルデザインに配慮した書体・配色を使用しています。

代表質問

記事（写真などを含む）は質問した議員が責任を持って作成しています。
本会議などの様子を、動画共有サイトYouTubeで配信しています。



代表質問……区の行政全般に関して、会派を代表して行うもの

7年度に向け区民福祉の増進の為に予算編成を！



自由民主党大田区議団・
無所属の会
伊佐治 剛



7年度予算編成と大田区の未来に向けた計画について

Q 7年度予算は、新たな基本計画・実施計画のスタートの節目となる重要なものである。予算編成に当たりどのような価値観で、どのような施策を盛り込む考えか、区長の展望を伺う。

A 我が国の社会経済情勢を捉えた政府の施策と、軌を一に地域の発展につなげるよう施策効果を高めること、そして区の地域特性を踏まえ、生活課題への対応、激甚化する自然災害への備えなど、今なすべき行政課題に着実に対応すること、暮らしの質やまちの価値を高め持続的な発展を実現するための未来志向の戦略的な投資を力強く進めること、これが7年度予算編成における私の基本的な方針である。

災害時物流の最適化と避難所DXについて

Q 避難所でのマイナンバーカード活用について、医療情報や薬剤情報の活用を含めて早期実現を期待しているが、今後の実現に向けた現在の検討状況と今後の見通しについて伺う。

A 避難所の入所手続と避難者の状況が電子媒体により把握できるマイナンバーカードとの連携は有効な手段の一つである。避難所入退室管理システムを速やかに構築し、区民が携行する、大田区防災アプリ*に組み込めるよう検討を指示している。

犯罪から区民を守るための施策について

Q 区内の刑法犯認知件数は、平成27年から7年連続で減少していたが、4年から増加に転じており、防犯対策のバージョンアップが喫緊の課題と考える。通称トクリュウによる強盗犯罪を含む、今後の防犯対策についての区長の見解を伺う。

A 一連の強盗事件では、発生前に不審な電話や訪問が確認されていることから、自動通話録音機の設置促進を更に強化しているところである。また、インターホンやポストに貼付することで、不審者が訪問をちゅうちょする効果が期待される、防犯ステッカーを無償配布する。区では防犯対策として、人の目が重要だと考えている。今後は年末を迎え、更なる人の目を増やすため青色回転灯パトロール車による警戒の大幅な強化を予定している。

介護人材の確保に向けた本気度について

Q 需要に合わせた確実な介護人材を確保するため介護人材確保計画が必要と考えるが、介護人材の確保に向けた区の本気度について

伺う。

A 6年度、区内の介護事業所に対し、介護人材の実態をより正確に把握するための調査を実施した。今回の調査結果で、推計された人材不足の状況を改善すべく、職能団体や関係機関と継続的に協議を重ね、具体的な需要数などをもとに、より計画的に人材確保施策を推進していく。

区民の健康を守るための施策について

Q 口腔の健康状態と全身の健康状態が密接な関係にあることは周知の事実である。おた健康プラン第四次の策定に向け動き出す時期だからこそ、区長には口腔の健康の重要性を考えてもらいたい。口腔保健センターや口腔がんの意識啓発など、口腔保健施策の充実に区長としてどのように実現に向け取り組んでいるのか伺う。

A 口腔保健センターの整備については、在宅医療や障がい者支援の在り方を含めた検討が必要であり、6年度、歯科医師会と意見交換の場を持つ予定である。また、口腔がんについては、更に口腔保健に関する区民の理解を深めるため、6年度は歯科医師会に委託している、歯と口の健康普及啓発事業の予算を増額し充実に図っている。

Q 館山さざなみ学校については、今日の子どもたちを取り巻く社会状況の変化などを考慮した視点、時代の変化に合わせた判断が必要である。今後のあり方検討委員会を設

置すべきと考えるが、教育委員会の見解を伺う。

A これまで多くの子どもたちが、肥満、ぜん息などの健康問題の改善に取り組み、大きな成果を上げてきた。平成25年の館山さざなみ学校の今後のあり方検討委員会報告書においては、入校児童の減少の推移や、親の意識の変化から、教育委員会としては、一定の役割を終えたとの考えをまとめた。その一方で、その後も、微減傾向は続いているが、子どもたちの受入れを継続してきた経過がある。今後、平成25年の報告書を踏まえ、子どもたちが抱える様々な健康課題に対して、どのように、きめ細かく対応していくのかを具体的に検討するための懇談会を設置する。



館山さざなみ学校の様子(授業)

用語解説

※大田区防災アプリ

地震や台風などの災害が発生した際に、大田区から発信する災害に関する情報を、素早く手に入れることができる大田区公式アプリのこと。

誰も置き去りにしない、暮らしやすい大田区を目指して！

大田区議会公明党
椿 しんいち



災害関連死をなくすため、災害発生時の要配慮者への対応について

Q 災害関連死から守るため総合防災訓練の再開を含め、避難所での要配慮者対策の検証と改善を

求める。区長の見解を伺う。

A 7年度は、総合防災訓練のテーマを避難行動要支援者対応とし、要配慮者対応の課題に多角的に取り組み、地域全体の対応力を向上させていく。

美術品の活用と教育について

Q 中央8丁目に開設予定のアートギャラリーの活用について、世界的作品や、区所有作品をどのように発信していくのか、そして区内の子どもたちへのアート教育について、区長の見解を伺う。

A 文化芸術によって心を豊かにする事や、感性を育むことができる力は私自身も強く感じている。開館を控えている中央8丁目の区施設での展示など広く発信し、誰もが美術に触れられるよう推進していく。

ユニバーサルデザインのまちづくりについて

Q 高齢者や障害がある皆さんの生活・権利等が保証される共生社会を目指す大田区ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針は策定から13年が経過しており、時代に即した基本方針へ改定する必要があると考えるが、区長の見解を伺う。

A 平成23年3月に策定した方針に基づき取り組んできた。社会環境の変化や、時代の変化を捉え、誰もが暮らしやすい社会を目指し、大田区ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針の改定を検討していく。

支援を必要とする子どもに関する、行政と子ども食堂の連携について

Q 子ども食堂に相談を頂いた時、手軽な方法での、子ども食堂と行政の連携は問題の早期解決に繋がると考える。スキルアップ支援も含め、区長の見解を伺う。

A こども食堂は地域でのつながりを大切にし、こどもや子育て家庭に食の支援や居場所として活動をされている。今後もこどもや子育て家庭へ包摂的に取り組んでいく。

一般廃棄物処理事業について

Q まちの発展とごみ処理は表裏一体で区民生活に深く関わり、常に同時進行で考えなくてはならない。廃棄物等を適切に処理するには、事業者との連携や協力、意見交換が重要と考える。適正な委託料設定など、持続可能な廃棄物処理事業について、区長の見解を伺う。

A 委託料の設定などを含めた情報共有や意見交換は重要と考えている。今後も、継続的な関係を維持し、持続可能な清掃事業の執行に努めていく。

スクールソーシャルワーカー(以後SSW)の拡充について

Q SSWは、いじめや不登校など、児童・生徒が抱える問題や課題の背景にある環境の整備を行い、その活躍が注目されている。今後の人員確保と人材育成の取組について、教育長の見解を伺う。

A 不登校状態の児童・生徒が増加している状況の中、SSWが専門性を生かし、福祉的に対応するケースが増えている。学校配置型事業を通じて、人材育成するとともに、他区の先進事例を参考にしながら、人材の確保に努め、子どもたちが抱える課題の早期発見、早期解決に向け支援を続けていく。

つばさ教室へ通う児童・生徒への給食の提供について

Q 不登校は本人はもちろん、時には本人以上に保護者も苦しんでいる。八王子市の不登校児童への給食の提供事例や、大田区つばさ教室での給食試食会を踏まえ、つばさ教室の生徒への給食の提供、そし

て保護者に対しどのような形で寄り添っていか、教育長の見解を伺う。

A つばさ教室は、学校へ登校できない児童・生徒を対象として、学校生活への適応支援を行う教室である。現在つばさ教室では、191人が通い、多くが自宅からお弁当を持参している。6年9月に初めて給食試食会を実施した。こどもたちがつばさ教室に通う仲間とともに、給食の時間を共有することで、こどもたちの笑顔が見られたことから、食を通じた心の安らぎ、豊かさ、そして幸福感の向上につながることを強く実感した。このようなこどもたちの願いに応えることで、つばさの児童・生徒にも、食育を通じた健やかな成長と豊かな体験となる機会を提供したいと考えている。そして、保護者にも、常に区が寄り添っていることを伝えていく。7年度からは区立小・中学校在籍のつばさ教室の児童・生徒に対しても、給食費無償化の効果が行き届くような支援をするとともに保護者向けのメッセージを教育長として発信していく。



核兵器廃絶を大田区から世界に／区民の暮らしの支援強化を



日本共産党大田区議団
佐藤 伸



ノーベル平和賞を受賞した被団協・被爆者の声に応える「核兵器のない平和都市」の取組について

Q 区内の被爆者と区長が直接懇談をして要望を聞いた上で、

その要望を大田区平和都市宣言記念事業に加えてもらいたい。

A 幅広く区民の声を聞きながら平和都市を宣言する自治体として、役割を果たしていく。

Q 国・政府に対し、被爆者の願いである核廃絶のために核兵器禁止条約に批准するよう働き掛けることを求める。

A 平和関連の各種事業を着実に進めていく。



ノーベル平和賞を祝す被爆者との連帯行動

物価高騰などで困難さ増す区民の暮らしと営業を支える予算について

Q 区内中小企業の賃上げについて、区独自の支援を実施した上で、支援の強化を求める。

A 区は限られた財源の中で効果的な支援を適時適切に行う。

Q 区立学校以外の児童・生徒がいる世帯に給食費相当の支援や、不登校の児童・生徒に給食費相当額を補助することを求める。

A 来年度から、つばさ教室の児童・生徒に、給食無償化の効果が行き届くように支援する。

Q 新空港線整備促進事業や関連する蒲田駅周辺地区の整備事業など、区民に見通しや今後の計画も示せないため、白紙撤回を求める。

A 新空港線は、交通利便性向上だけではなく、老朽化した市街地を魅力的なまちへと変えていくための起爆剤となる事業である。

区民が快適に、安心して利用できる公共施設について

Q 施設使用料が高いなどの声が多く、多くの区民から寄せられている。2025年に予定されている施設使

用料の見直しはやめるべき。

A 公平性を確保する観点から、利用する方に一定の施設使用料を負担してもらう必要がある。

Q 複合施設の駐輪場が少なすぎる。また、工事中のスマイル大森[※]では、完成まで仮設の駐輪場を必要台数確保することを求める。

A 各施設の利用状況なども踏まえながら、その台数を定めている。スマイル大森においても、追加対策について既に検討している。

用語解説

※スマイル大森

入新井第一小学校に併設され、区民活動施設、男女平等推進センター、地域包括支援センター、シニアステーション、適応指導教室「つばさ」などの多彩な施設機能を有する地上6階、地下2階の大型複合施設。誰もが生き生きと活動でき、地域に交流とにぎわいをもたらす大森地域の新たなランドマークとなることを目指している。

大田区がより安全で活力溢れる街になることを目指す



つばさ大田区議団
松原 元



近年の凶悪犯罪に対する区の対応について

Q 重大な犯罪行為が横行している。区は、善良な区民に対する啓発活動だけでなく、加害者になり得る人物へ、その行動を思いとどまらせる情報発信を行っていく必要性を感じる。区長の考えを伺う。

A 未来を担う若者が犯罪に手染めることなく、夢と希望を持って安全に安心して成長していけるよう、引き続き警察をはじめ、関係機関や地域の方と連携・協力し、対応していく。

Q こどもたちに、刑法一身近な犯罪の構成要素と、その罰則

についての理解を進めていく必要性を感じるが、区への考えを伺う。

A 刑法について学び、理解を深めることは必要なことである。犯罪に関する知識を身に付けさせるとともに、善悪の的確な判断力、自制心を育成し、犯罪に追い込まれることがないように、取り組んでいく。

公共施設について

Q 田園調布せせらぎ館に体育施設が完成したが、調布地域の公共施設整備が完成したわけではない。区では区民サークル活動が熱心であり、球技のできる環境など、区民要望を意識しながら、今後の調布地域の公共施設整備を進めてもらいたいと考えているが、区への考えを伺う。

A 調布地域の施設は、約66%が学校教育施設であり、他地域と比較すると、その割合が高い。学校施設は、地域資源の一つとして、地域開放を進めるなど、多目的な利用が可能となるよう取り組んでいる。引き続き、「施設の適正配置の実現」や「施設の集約及び有効活用」を進めることで、区民サービスの維持・向上を実現していく。



住民の生活の質の向上が期待される

未来のために子どもや現役世代がワクワクするような大田区を！



東京政策フォーラム
(都民ファースト・
国民民主・無所属の会)
おぎの 稔



不合理な税制について

Q 不合理な税制によって東京都の財源が地方に流出する現状

についての区長の認識を伺う。

A 国による不合理な税制改正の6年度の影響額は、特別区全体で約3,200億円、大田区で約215億円に上り、提供できる行政サービスに対する大きな制約となっている。

少子化対策について

Q 23区の多くは10から20代の転入が多く、30代とこどもの転出が多いが、区への認識を伺う。

A いわゆる子育て世帯の転出が多くなっている。定住意向のある30代とその子どもを含む世帯が区に住み続けられるよう支援することは、重要な課題である。

羽田空港について

Q 羽田空港跡地第1ゾーンや周辺の多摩川や海老取川沿いの国有地について、今後の利活用に対する区への認識を伺う。

A 羽田空港跡地第1ゾーンは国内外の空の玄関口である。土地区画整理事業後の土地利用が定まっていない国有地については、立地の特徴を生かし、先行して整備される周辺施設の機能も踏まえて利用を検討する必要があると考えている。



羽田エアポートガーデンにて

子育て世帯に寄り添う
福祉・環境・教育を問う



立憲民主党大田区議団
小川 あずさ



Q 養育費を不払いのひとり親家庭の支援を区長に伺う。

A 離婚と養育費相談事業を実施し、公正証書等作成促進補助事業で、債務名義化を促進している。

Q 闇バイトについて、区長の見解を伺う。

A 対応は急務であり、相談窓口にくる若者に寄り添い、警察、学校、地域、関係機関と一丸となって取り組んでいく。

Q 情報モラル教育における今後の取組について伺いたい。

A 子どもたちが犯罪に関わらない方法など話し合う授業をし、各機関、関係者と取り組む。

Q 子育て世代が滞在したくなる蒲田駅への区長の見解は。

A 新空港線整備に合わせて、憩い、たたずめるまちにする。



昨年の夜桜@蒲田の公園

Q 中学校での全国学力テストの結果を受け今後の対策を伺う。

A 自分の考えをまとめる力などを高めるよう取り組む。

議会ライブ配信のご案内

本会議及び予算・決算特別委員会の様子をYouTube大田区議会チャンネルでライブ配信しています。

詳細は、大田区議会のホームページをご確認ください。

議会議中継に関する
情報はこちら



一般質問

記事は質問した議員が責任を持って作成しています。

本会議などの様子を、動画共有サイトYouTubeで配信しています。



一般質問……区の行政全般に関して、各議員が行うもの



大田区議会公明党
鈴木 ゆみ



デジタル地域通貨の導入について

Q イベント参加時のポイント特典など、インセンティブによる政策誘導などを図ることができる「デジタル地域通貨」を早期に導入すべきと考えるが、区の見解を伺う。

A 大田区プレミアム付デジタル商品券事業など、既存事業との連携も見据えながら、更なる地域活性化の一助と、シティブランディングに資する機会と捉えて、デジタル地域通貨やポイントのプラットフォームについて、前向きに導入と活用を検討していく。

公共施設の整備について

Q 工事前払金の支払限度額の見直しについて、伺う。

A 7年度から工事前払金の支払上限額を、近隣他区の状況を踏まえ、現在の2億円から増額するよう手続を進めている。

Q リース方式活用など、1日も早い公共施設照明のLED化の推進を求めるが、区の見解を伺う。

A アウトソーシング手法など、更なる検討を進めており、LED化の早期実現に向け、区内一丸となって計画前倒しを検討していく。

Q 環境セクションは、LED化早期導入に向け、どのように

リードしていくのか、伺う。

A 庁内の旗振り役として、組織横断的な連携・協働を一層図り、早期実現に向け全力で取り組む。

登校時間前の「小1の壁」解消について

Q 「小1の壁」の課題について、区の見解を伺う。とりわけ長期休業中の学童保育開始時間までの朝の居場所づくりに向け、早期対策を求めるが、区の見解を伺う。

A 共働き家庭などの保護者が、保育園に預けていた子どもが小学校に入学すると仕事との両立に困難を感じる小1の壁について、対策が必要な課題と認識している。長期休業期間における朝のこどもの居場所づくりは、放課後ひろばを運営する事業者との協議を重ねており、諸課題を整理し、検討を進めていく。



大田区議会公明党
あまの 雄太



不登校対策について

Q 大田区での5年度の不登校数を伺う。また、本区における現状の成績評価の取組状況と課題についての区の見解を伺う。

A 5年度の不登校者数は、区立小学校、中学校を合わせて1,429人となった。一人ひとりのこどもの学習状況などを教師が把握し、当該児童・生徒を励まし、成長を促

すことができる時間の確保や体制づくりに努めていく。

Q 今後は図書館などの施設で学習に取り組む際に出席扱いとなるよう、ガイドラインの整備を行ってほしいと要望するが、区の見解を伺う。

A 今後は、不登校児童・生徒が区立図書館で学ぶ際の出席の取扱いについて、ガイドラインに位置付けることを検討するとともに、区立図書館での環境整備や利用者への周知・啓発を進めていく。

フェーズフリーについて


Q ホームページや防災関連のリーフレットなどを通じて、区民に具体的な事例の情報発信を行っていくことを提案するが、区の見解を伺う。

A あらゆる機会に各種啓発物や媒体を活用し、発信する。対面で実施する防災講話においては、概念を周知するとともに、「あなたのフェーズフリーについて教えてください」と意見交換をしながら、ともに学んでいく。実際に役立つ情報を提供し続け、今後も区民とともに考え、行動する防災対策を提供していく。


Q こどもたちに対してフェーズフリーの考え方の啓発を行っていくことを提案するが、見解を伺う。

A おおたの未来をつくるこどもたちと一緒に学ぶことができる、対象に応じた丁寧な周知を実施していく。区としては、いつも使え

る、もしも使える、そのような取組や、啓発活動を進めつつ、引き続き区民とともに災害に強い体制を築いていく。



東京政策フォーラム
(都民ファースト・国民民主・無所属の会)
寺下 なおみ




駅前駐輪場の整備について

Q 大田区は自転車利用率が特別区で最も高く、駅前商店街に無料駐輪場を確保することはできないか、伺う。


A 自転車利用者のニーズを踏まえ様々な角度から検討し取り組んでいく。

Q 自転車利用が多い大田区は駐輪場問題を怠れば違法駐輪の増加や交通の安全性に関わるが駅前駐輪場の整備予定について伺う。

A 大田区自転車等駐車場整備方針を定め、現在、蒲田駅東口駅前地下自転車駐車場の整備中。今後も民間の開発業者や鉄道事業者と連携していく。



東京政策フォーラム
(都民ファースト・国民民主・無所属の会)
とく山 れいこ



ヤングケアラーについて

Q 今回の調査目的、課題や今後の施策について見解を伺う。

A 区では、この調査結果に基づき、子どもたちの負担軽減、相談意識の醸成、相談体制の整備、周囲の大人の気付きについて区が取り組むべき課題としている。有効な支援に向けた取組を推進していく。



教育費無償化について

Q 副教材の無償化及び修学旅行費の支援の現状について伺う。

A 修学旅行費は、生活保護世帯へはできる限り早く支給している。様々な施策の充実と同時に財源配分が課題であり、引き続き、先行自治体の取組を調査研究していく。



自由民主党大田区議団・無所属の会
高瀬 三徳



マイナンバーについて

Q マイナンバーカードの保険証は、どのような取扱いになっているのか、伺う。

A より良い医療、DXの基盤の整備、過誤請求事務負担の軽減、不正給付の防止、公平・公正な社会の実現が可能になるなど、様々なメリットがある。取得は任意であることから、マイナ保険証としての利用も強制されるものではない。適切な対応を行っていく。

Q マイナンバーカードの申請・発行事務について、状況や課題などがあれば伺う。

A 利活用の拡大に伴って、カードセンターにおいても、予約が増加をしている。課題としては、管理事務など、運用事務の増大がある。再交付事務が新たに生じるが、サービスの低下を招かぬよう円滑な執行体制の整備・確保を図っていく。

区内産業活性化について

Q 産業のまち大田区が他自治体と積極的に連携することは有意義と考えるが、区の見解を伺う。

A ネットワークを広げていくことで、産業の連携を更に強固にし、区内経済と地域振興の更なる発展につなげていく。

介護現場におけるカスハラについて

Q 区の介護現場でのカスハラ対策などの取り組みを伺う。

A 区独自の啓発チラシを作成し、介護認定結果通知書に同封することを始めた。また、介護従事者向けにハラスメント研修を実施している。

Q 介護現場のカスハラ対策を今後どのような手法や方向性で対応していくのか伺う。

A カスハラ対策を推進するために重層的支援会議などの活用を行っていく。

伊豆高原学園の今後について


Q 11年度のPFI事業の終了を見据え、今後について伺う。

A これまでの成果と課題を検証し、大規模修繕も視野に入れた最適な運営手法の検討を進める。


大田区ホームページのリニューアルについて

Q ホームページをリニューアルすることなどを検討すべきと考えるが、区の見解を伺う。

A 今後は、ホームページトップ画面のリニューアルを通じて、区民に新たな大田区の将来像、新しい政策について伝わる発信を改めて行っていきたいと考えている。



自由民主党大田区議団・無所属の会
中坪 悦子



Q デジタル庁が推進する、自治体DX推進計画における重点取組事項「フロントヤード改革」に関する区の取組事例について伺う。

A 現在は本庁舎1階にて、アバターロボットを活用した総合

受付及び窓口案内業務支援の実証実験を行っているほか、7年1月には、スマホやPCから、簡単な質問に答えるだけで、自身に必要な行政手続や持ち物などが分かる手続きガイドを導入する。

Q 公印が必要な文書の見直しや現場の運用も含め、対外的に発信する文書の電子化の早期実現に向けた現状の課題について伺う。

A 公印を押印せず、電子署名を付与した電子文書提供の実施は、公印が必要な文書の見直しや電子署名の利用に向けた環境整備に加えて、電子文書の安全性や真正性の担保の課題がある。業務をより効率的・効果的に進めるため、関係部局との連携のもと、課題解決を図る。

Q 都の共同調達やデジタル人材の確保を請け負う、GovTech東京*の調達の実績及び成果について伺う。

A 区では、グループチャットやオンライン申請のツールを共同利用している。情報システムの標準化及び生成AIの活用について助言を受けている。行政課題の解決に意欲のある人材と、DX推進に関する課題を抱える区市町村とのマッチングを支援する団体と人材の活用に向けて準備を進めている。

Q 地域巻き込み型のシティプロモーションについて区の考えを伺う。

A 一例であるが、現在、ユニークおたフォトキャンペーンなどを実施し、区民にとって、主体的に発信する第一歩となる取り組みを鋭意推進していく。

Q 駅前のイルミネーションなど、もっと蒲田を盛り上げていきたいと考えている。区内外から共感を得るような取組について伺う。

A 新空港線の開業に向け、JR蒲田駅東西口をはじめ、京急蒲田駅までの蒲田周辺エリアのまちの魅力の向上には、地域の方と、蒲

田のまちを愛し、応援してもらえよう方の理解・協力が不可欠である。この一大プロジェクトを着実に前に進めていくために、ふるさと納税を活用したクラウドファンディング事業についても、地域の方の協力をもらいながら、関係部局と連携し、検討を重ねていく。

用語解説

※GovTech東京

多様なパートナーとともに、都と区市町村を含めた東京全体のDXを効果的に進める新たなプラットフォームとして、5年に設立された一般財団法人のこと。



自由民主党大田区議団・無所属の会
天坂 大介



高齢者などの住宅確保要配慮者に関する区の取組について

Q 住宅相談の実績と、対応要領について伺う。

A 5年度の相談件数は1,067件、6年4月から10月末までは667件で、そのうち高齢者の割合はいずれも75%超であった。相談には近隣の協力不動産店の紹介や各種助成事業の説明等を行い、状況に応じて高齢福祉課や生活福祉課等と連携して入居者支援対応を行っている。

Q 今後いかに協力不動産店を増やし、高齢者が安心して住まい探しができる環境をつくるか伺う。

A 現在の登録数は、6年10月末時点で108店舗である。更に増やすため、不動産所有者や不動産店に向けたセミナー開催、宅建協会や全日本不動産協会に区の事業説明と協力依頼を行うほか、緊急連絡先代行サービスや緊急通報サービス、入居者死亡保険加入費などの一部助成等により、環境整備に努めている。

Q 窓口に来所せずとも、電話や郵送だけで相談手続が完了す

ような相談方法の拡充が今後求められると考えるが、区の方針を伺う。

A 個人情報を守るため、窓口での対応を心掛けているが、希望に沿った形で柔軟に対応していく。

放課後教室の自主学習支援事業について

Q モデル校における参加状況や具体的な反応について伺う。

A 6年度から放課後こども教室において、自主学習支援を小学校6校でモデル実施している。様々な過ごし方の一つとして自主学習支援を位置付けている。モデル校全体では、1年生の70%以上、2年生の50%以上が参加を経験しており、成果を上げている。今後の拡充に向けて検討していく。

区立小学校の英語教育について

Q 小学校の国際教育推進校の現状と課題について伺う。

A 6年生に中学校初級程度の英検5級を実施したところ19人中15人が合格した。一方、連続性ある中学校での学習方針が課題である。

Q 区内小学校全体への展開について教育委員会の考えを伺う。

A 英語での相互対話を行う指導を低学年から多く取り入れることが分かった。7年に研究発表会を開催し、授業公開や講演会を実施して区全体の向上につなげる。



つばさ大田区議団
伊藤 つばさ



選挙の不正投票防止対策について

Q 現状、自宅に届く投票所入場整理券がなくても簡単に投票することができてしまう。不正投票を防止するためにも、身分証の提示

など本人確認が必要ではないか。

A 手続きが煩雑となり、選挙人の投票の機会を奪う可能性もあることから、現時点では身分証の提示を求めることは考えていない。

女子トイレを守ってください

Q 区役所及び区有施設の女子トイレについて、利用できる対象者が定められているのか。

A 多目的トイレを除き、男女別になっている。

区内利用者を優先してください

Q 田園調布せせらぎ館のトレーニングルームは新築で周辺環境がよく、区外からのアクセスも良い。区内利用者を優先するためにも、一律330円ではなく区外利用者料金を設定するべきではないか。

A 区内在住・在勤であるかの確認など管理上の課題がある。DXを推進していく中で検討を行う。



教員不足が続き、過労死ラインを超えている中、どの子にもゆきとどいた教育を進めるための教職員の働き方について

Q 子どもたちと向き合う時間を作るため、研究の在り方も含め、業務縮減、教職員の大幅増など、現場の声を聞き、手立てを取ること。

A 部活動の地域連携・地域移行や、コミュニティ・スクールの推進などに加え、DX化を進め、教員の負担軽減につなげていく。

Q 部活動を生徒の成長の場として保障していくため、モデル事業の課題を明らかにし、生徒や教員、保護者の声を聞きながら改善することを求める。

A 生徒や教員、保護者の声を聞き、効果検証しながらモデル事業を拡充していく。部活動の地域連携・地域移行に関する検討会で議論を重ね、今後の在り方を整理する。

Q 学校で働く補助員などの非正規職員を仕事に見合った処遇に改善し、必要に応じて正規雇用することを求める。

A 近隣自治体の動向や社会情勢を踏まえて適切に対応する。

会計年度任用職員を始めとする公務労働でのジェンダー平等について

Q 現在4回までの会計年度任用職員の再度の任用回数上限を撤廃し、処遇を改善し、必要に応じて正規雇用すること。

A 東京都や他区の動向も注視して、適切に対応していく。



高齢者の労働について

Q 高齢者の就労支援の現状と今後の取組について伺う。

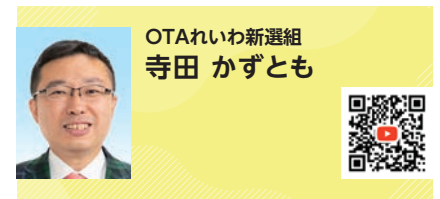
A 大田区シルバー人材センターは60歳以上の会員に就労の機会を提供。大田区いきいきしごとステーション、シニアステーション糀谷は、高齢者の就労支援事業に取り組み各機関にハローワーク大森を加えた高齢者の就労支援の取組をする。

主権者教育について

Q 義務教育中に選挙を身近に感じる主権者教育について伺う。

A 選挙管理委員会では学校で実施する主権者教育の支援の一環として、選挙体験教室を実施。高等学校や特別支援学校では出前授業や模擬投票などを行っている。継続

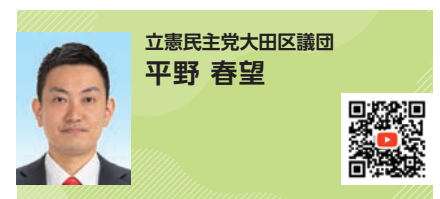
的に選挙に触れるため、選挙に使用する資・器材を有効に活用しながら今後も学校、教育委員会で取り組む。



校則について

Q 生徒指導提要の改訂前の状況と、改訂後の改善状況について伺う。

A 大田区立中学校では、文部科学省の生徒指導提要の改訂以前から、生徒から靴下の色指定を見直してほしいなどの意見が出され、生徒会から校則の見直しを提案した事例など、生徒自身が決まりの意義や必要性を考えることで、主体性を培う生徒指導をしてきた。改訂された生徒指導提要において、時代の変化に即した指導をしていくことが示された。それを踏まえて、各学校は校則を見直し、学校のホームページで公開した。また学校によっては、生徒と学校の教職員が保護者や地域の代表、教育委員会のスクールロイヤーとともに意見交換をする場を設けて校則を見直す会議を行っている。



樹冠被覆率について

Q グリーンプランの全体目標の指標として樹冠被覆率も入れて欲しい。また樹冠、緑の日傘を増やしていくことについて伺う。

A 樹冠被覆率の重要性について、区としても十分に認識するところである。区は、様々な手法を活用して、みどり豊かな都市空間の形

成に努めていく。

チーム担任制[※]について

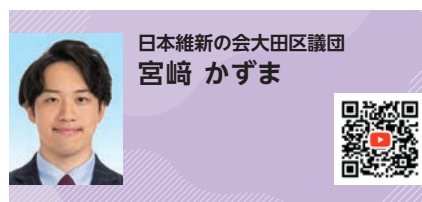
Q 区立学校でのチーム担任制の推進について伺う。

A チーム担任制は、区内では蓮沼中学校が学年担任制という名称で試行を開始。学年担任制を行うことで、教員の負担軽減とともに、こどもたちも自分たちが学級を運営しているという意識が高まり、自主性が高まっているという成果がある。

用語解説

※チーム担任制

学級担任を固定せず、学級における児童・生徒の指導など（小学校での授業や、小・中学校での学級活動・給食・保護者対応など）の業務を複数の教員がローテーションで担当するなどして行う学級運営の方法。



日本維新の会大田区議団
宮崎 かずま

日常生活支援住居施設における運営実態について

Q 日常生活支援住居施設や無料低額宿泊所といった施設の運営実態について、区の見解を伺う。

A 著しく狭あい設備が不十分かつ高額費用を徴収する、いわゆる貧困ビジネスが問題となった。区では訪問や入所者との面談により、適切なサービスを受けているか確認している。悪質な運営が疑われる場合、法に基づき指導権限を有する東京都に報告し、速やかに別の居所を確保する支援を行っている。東京都と連携し、入所する生活保護受給者の自立に向け、支援に努めていく。

若者^{たち}への選挙啓発について

Q 「二十歳のつどい」への出席背景とその内容について伺う。

A 二十歳のつどいでの啓発は、選挙権を得る形の若者に直接

啓発ができる機会として有効であると考えている。実際の投票所を再現するため、投票用紙記載台、投票箱、投票用紙交付機などの選挙資材も活用して模擬投票を実施。引き続き、様々な場面で、全体の投票率向上に向けた取組を幅広く実施していく。



立憲民主党大田区議団
津田 智紀

マイナ保険証について

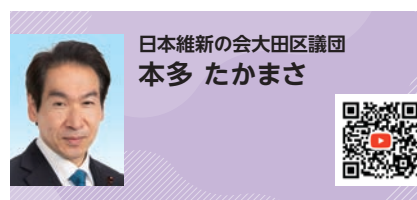
Q 本区の国民健康保険事業におけるマイナ保険証の普及率と、資格確認書の交付状況とその他今回の新規被保険者証の発行が止まることによる対応状況を伺う。

A 区の国民健康保険におけるマイナ保険証の利用登録者は6年10月末時点で、被保険者の約52%である。なお、マイナ保険証を持っていても利用が難しいなどの事情がある場合にも、申請をしてもらうことで資格確認書を交付できる。

新空港線について

Q 新空港線の是非に絞った区民アンケートを行うべきであると考えているが、いかがか。

A 現段階で新空港線事業を進めることの是非について聞くアンケートの実施は考えていない。



日本維新の会大田区議団
本多 たかまさ

ごみ収集について

Q 様々な事情から戸別収集の需要が増す中、実証実験を行うなど、戸別収集への準備を進めていく必要があると考えるが見解を伺う。

A 人員や車両の確保、効率性や経費面など慎重に検討すべき。今後の大事な研究課題と認識する。

Q 夏季の熱中症対策など作業員の負担軽減のためごみ収集時間の変更も必要と考えるがいかがか。

A 限られた人員や機材の中で安定的な収集体制の維持が重要であり時間の変更は考えていない。

こどもへの性犯罪根絶への取組

Q 性犯罪は被害者の心に生涯消えない傷を残す「魂の殺人」とも言われている。しかし昨今こどもへの性犯罪が絶えない状況である。そのような状況下、こども性暴力防止法、日本版DBSが8年から施行予定だが課題も多く、今後も様々な改善が必要だ。本区でのこどもへの性犯罪根絶への取組、今後どのような施策を行っていくのか伺う。

A 性犯罪防止対策やこどもの相談対応、再犯防止など総合的な取組により性犯罪防止に努める。

本会議録速報版のご案内

本会議録が発行されるまでの期間、速報版を掲載しています。

なお、実際の本会議録と一部異なる場合があります。

簡単アクセス!





今回審議した議案の結果は以下のとおりです。

○：賛成 ×：反対 欠：欠席

種別	件名	会派名称 (所属議員数)										結果	
		※自 (15)	公 (11)	共 (5)	つ (4)	フォ (4)	立 (4)	維 (3)	フェ (1)	れ (1)	無 (1)		子 (1)
令和6年度補正予算	一般会計 (第3次)	○	○ 欠1	○	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
条例の一部改正	大田区行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する条例	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	大田区立障害者福祉施設条例	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	大田区長等の給料等に関する条例	○	○ 欠1	×	○	○	○	×	×	○	○	○	可決
	大田区行政委員会の委員の報酬及び費用弁償に関する条例	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	大田区監査委員の給与等に関する条例	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	職員の給与に関する条例	○	○ 欠1	○	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例	○	○ 欠1	○	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	大田区教育委員会教育長の給与等に関する条例	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
契約の締結	大田区産業プラザ大規模改修工事請負契約	○	○ 欠1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	大田区産業プラザ大規模改修電気設備工事請負契約	○	○ 欠1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
契約の変更	仮称大田区南馬込四丁目資料館大規模改修工事請負契約	○	○ 欠1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
指定管理者の指定	大田区新蒲田一丁目複合施設	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	大田区新蒲田市民活動施設	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	大田区総合体育館	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	大田区民プラザ	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	大田区民ホール	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	大田文化の森	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	大田区立熊谷恒子記念館	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	大田区立馬込アートギャラリー	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	大田区立籠子記念館	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	大田区立障害者福祉施設	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
大田区立図書館	○	○ 欠1	×	○	○	○	○	×	○	○	○	可決	
教育委員会委員の任命	藤井 大吾	○	○ 欠1	○	○	○	○	○	○	○	○	同意	

※議長は表決に加わりません。

報告

- 調停事件の和解に係る専決処分
- 区の義務に属する損害賠償額決定に係る専決処分
- 大田区立安方中学校校舎改築その他工事 (I期) 請負契約の専決処分
- 大田区立大田生活実習所改築その他工事 (I期) 請負契約の専決処分
- 大田区総合体育館特定天井改修その他工事請負契約の専決処分
- 大田区立馬込小学校校舎増築及び給食室改修その他工事請負契約の専決処分
- 大田区立安方中学校校舎改築その他電気設備工事 (I期) 請負契約の専決処分
- 大田区総合体育館特定天井改修その他電気設備工事請負契約の専決処分
- 大田区立安方中学校校舎改築その他機械設備工事 (I期) 請負契約の専決処分
- 大田区立大田生活実習所改築その他機械設備工事 (I期) 請負契約の専決処分

会派名称	自	公	共	つ	フォ	立	維	フェ	れ	無	子
	自由民主党大田区議団・無所属の会	大田区議会公明党	日本共産党大田区議団	つばさ大田区議団	東京政策フォーラム (都民ファースト・国民民主・無所属の会)	立憲民主党大田区議団	日本維新の会大田区議団	フェアな民主主義	OTAれいわ新選組	おおたで生きる無所属	大田子ども防災会



今定例会での請願・陳情の審査結果は以下のとおりです。

※引き続き継続審査としたものを除く。

付託委員会	件名	審査結果
総務財政委員会	再審法改正の促進を求める意見書を国会・政府に提出することを求める陳情	不採択
まちづくり環境委員会	真に区民一人一人のためになる沿線まちづくり構想の実現を願う陳情	不採択
こども文教委員会	東調布中学校改築に関する陳情	不採択
羽田空港対策特別委員会	大田区内陸部に進入する西方面へ向かう航空機に対しての南風運用時の調査を願う陳情	不採択
防災安全対策特別委員会	身体障害者、車椅子利用者、オストメイト使用者対応をすることを求める陳情	継続

大田区議会 会議録のご案内

大田区議会の会議録は大田区立図書館、区政情報コーナー（区役所本庁舎2階）のほか、大田区議会ホームページでご覧いただけます。

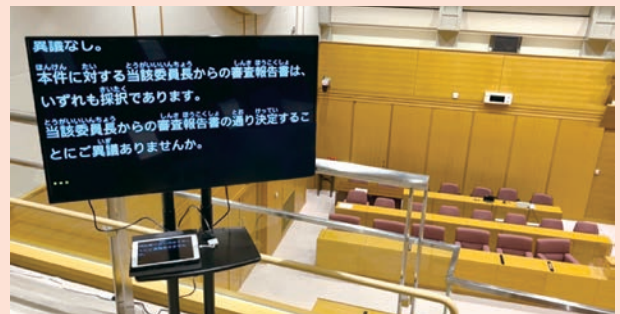
簡単アクセス!



議会の傍聴に関するご案内

●音声認識文字変換ツール（UDトーク）

本会議及び予算・決算特別委員会での発言内容を文字化し、議場傍聴席に設置した液晶モニターにリアルタイムで表示します。



音声認識文字変換ツール（UDトーク）

●手話通訳

発言内容を手話でお伝えします。本会議及び委員会で利用できます。傍聴希望日の7日前までに問合せ先へお申し出ください。

●FM補聴

FM補聴システムを通じて聞こえる音声によって、発言内容が聞き取りやすくなります。本会議及び委員会で利用できます。傍聴の際にお申し出ください。

●親子傍聴席

防音設備内で、お子様と一緒に安心して傍聴できます。



親子傍聴席

●車いす用スペース

車いすに乗ったまま傍聴ができるスペースを用意しています。



車いす用スペース

簡単アクセス!



問合せ先 議会事務局 FAX 03-5744-1541 電話 03-5744-1474

令和6年度一般会計補正予算（第3次）を可決

令和6年度一般会計第3次補正予算は、以下の視点を踏まえて計上されました。

●第2次補正予算編成後に生じた状況の変化に速やかに対応するための予算

今回の補正予算の規模は、2億98万2千円の増額となりました。

計上された主な事業は、以下のとおりです。

一般会計補正予算（第3次）の主な事業

総務費

- 多摩川田園調布緑地維持管理 1億4,180万円
多摩川田園調布緑地の災害復旧に係る経費



区政施策調査

期 間 令和6年10月27日（日）から11月2日（土）まで

訪問都市 インドネシア共和国ジャカルタ首都特別州 北ジャカルタ市・中央ジャカルタ市・東ジャカルタ市、西ジャワ州 ブカシ県

ベトナム社会主義共和国バリア・ブンタウ省 バリア市、ホーチミン市

訪問議員 大森昭彦、湯本良太郎、高山雄一、北村やよい、須藤英児

区内産業の海外展開及び人材交流に向けた調査として、インドネシア及びベトナムにて、職業訓練校、工業団地、日本語学校、現地のジェトロ事務所などをそれぞれ訪問しました。

また、日本と同様の自然災害を経験しているインドネシアにおいては、大規模地震災害などの対策について調査するため、国家防災庁及び地方防災局を訪問しました。更に、現地日本企業との意見交換会を実施し、

海外展開に伴う課題や成果についてお話を伺いました。

ベトナムで訪問したバリア・ブンタウ省人民委員会では、双方の職員の交流及び区内産業の発展を推進するため、大田区職員も交えたWEB会議を実施しました。

今回の調査を踏まえ、これからも積極的に様々な国・地域の施策を調査研究し、区政の課題解決に向けて取り組んでいきます。



ミトラ・インダストリMM2100（職業訓練校）を訪問（インドネシア）



バリア・ブンタウ省人民委員会商工局を訪問（ベトナム）

報告書は、ホームページ及びおおた区議会年報（令和7年3月発行予定）に掲載します。

大田区議会議員の男女比

平成6年



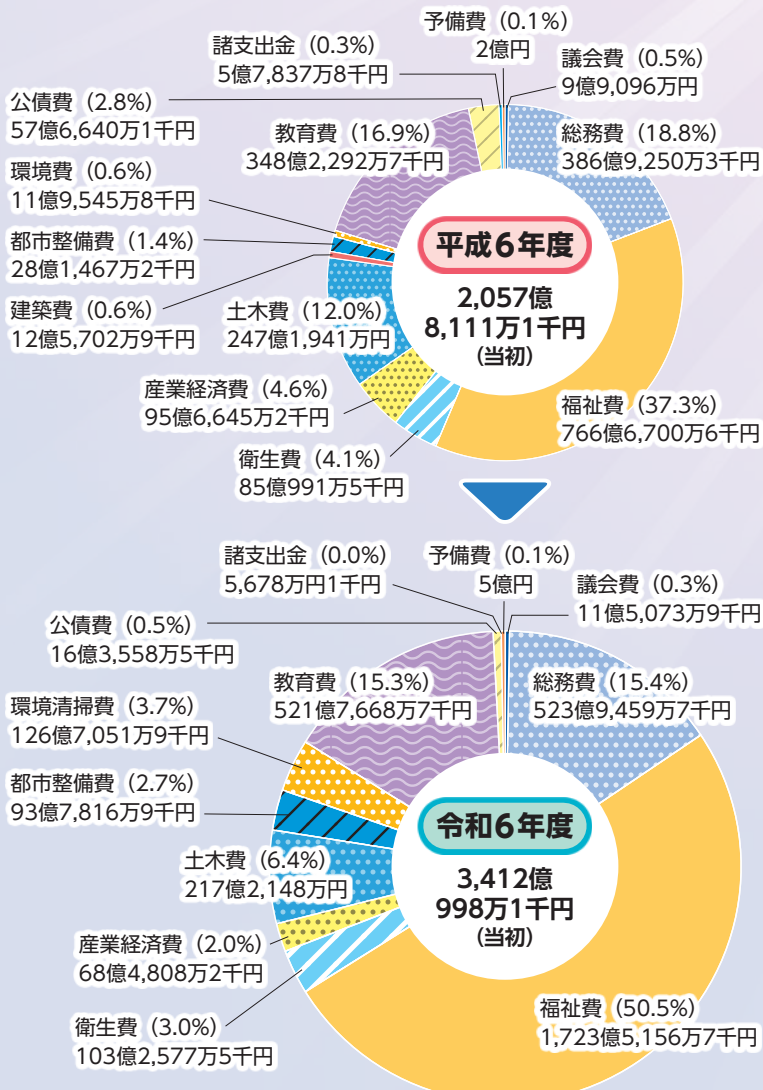
令和6年



この30年で女性議員の比率は、約3倍に！

大田区の予算（一般会計歳出）

この30年で予算は約1,354億円増加、
福祉費の比率は13.2ポイント増加！



※カッコ内の比率は、表示単位未満を四捨五入しています。

30年前に タイム

平成6年
(1994年)



当時の
大田区の様子は……？



大田区役所本庁舎
(平成4年撮影)

今の大田文化の森に
あつたびよん！



©大田区



大田区議会議場
(平成10年撮影)

スリッパ!

令和6年
(2024年)

30年前の様子を
見にいっぴょん!

一世代の周期は、おおむね「30年」と言われていますが、30年前にこどもだった人たちは今、地域社会を支える世代になっています。この30年の間、人々のライフスタイルはもちろん、大田区議会や大田区も大きく変わってきました。大田区公式PRキャラクター「はねぴょん」とともに、30年の変化を見ていきましょう。



大田区産業
プラザPiO
(平成8年開設)

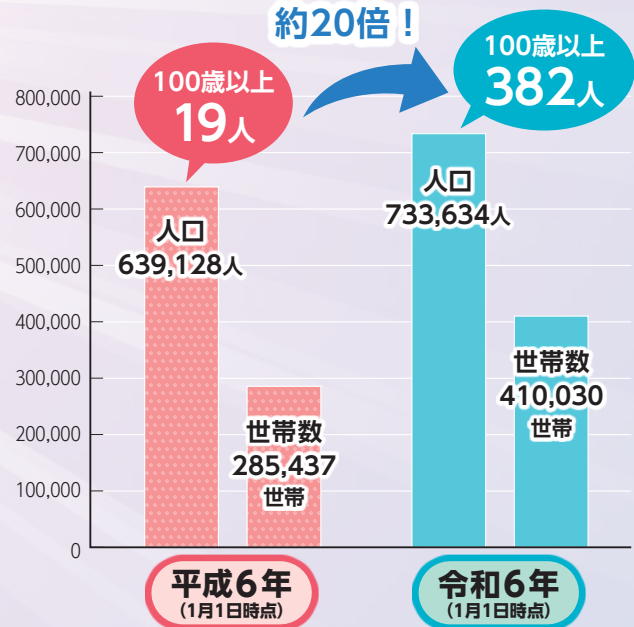
平成6年に
「休養村とうぶ」
の土地取得議案
を可決



当時の人々の様子
(平成5年のOTA
ふれあいフェスタ)

大田区の人口

この30年で人口は約10万人、
世帯数は約12万世帯増加!



30年前に大田区議会議員だった
鈴木区長に聞いてみたぴょん!



平成6年

大田区議会議員
1期目



令和6年

現・大田区長
鈴木 晶雅

今から30年前はバブル崩壊後で、区内事業者も厳しい状況下にありました。区議会も区と同様に先を見据え、77項目の新規事業を実施するための予算を可決しました。私は福祉政策などに関わる、地域産業保健委員会に所属し、特別養護老人ホームの建築計画などを進めていました。「休養村とうぶ」の建設用地視察も印象深いです。こどもたちにこの大自然を「第二の故郷」として感じてもらえればと期待したことを、今でも鮮明に覚えています。

※令和6年9月区長インタビューより

会派の結成・変更がありました（令和7年1月1日）

新しい会派

区民とつくる未来（略称：未来）

寺下 なおみ

大田区議会国民民主党（略称：国民）

とく山 れいこ

※東京政策フォーラム（都民ファースト・国民民主・無所属の会）（略称：フォーラム）は、令和6年12月31日付けで解散しました。

所属議員の変更

つばさ大田区議団（略称：つばさ）

犬伏 秀一 須藤 英児

松原 元 伊藤 つばさ

おぎの 稔 清水 ちこ

大田区議会ガイドブックのご案内

若い世代の方にも区議会の活動を知ってもらうため、イラストを用いて分かりやすく紹介する「大田区議会ガイドブック」を発行しています。

ホームページからもご覧いただけます。

簡単アクセス!



ホームページのご案内

議会の新着情報や議員名簿、会議日程などをお知らせしています。

ぜひご活用ください。



簡単アクセス!

詳細は /

大田区議会



おおた区議会だよりへのご意見をお聞かせください。

今号、新たに特集記事「30年前にタイムスリップ!」（14、15ページ）を掲載したことに伴い、アンケートを実施しています。

いただいたご意見については、今後の紙面づくりに役立てていきます。

スマートフォンなどから、右のURL又は二次元コードにアクセスし、回答をお願いいたします。

ご意見お待ちしております。
2分程度で回答できます!

アンケート期限：
令和7年2月16日（日）



<https://logoform.jp/form/8BrJ/799419>

第1回定例会の予定

2月14日（金）～3月26日（水）

○請願・陳情の締切り 2月7日（金）

※会議の日時などは、定例会開催前の議会運営委員会で決定します。

詳細は、ホームページでご覧いただくか、議会事務局までお問合せください。



今号は、令和6年12月31日時点の会派の構成をもとに作成しています。

No.265 令和7年1月26日 おおた区議会だより 令和6年 第4回定例会号

発行:大田区議会 〒144-8621 大田区蒲田五丁目13番14号 ☎03-5744-1474(直通) FAX:03-5744-1541

<https://www.city.ota.tokyo.jp/gikai/>

大田区議会

